

平成27年度 中部地方ダム等管理フォローアップ委員会 議事要旨

1. 日 時 : 平成27年12月14日(月) 13:00~17:40
2. 場 所 : TKP 名古屋駅前カンファレンスセンター8階ホール8A
3. 出席者 : 藤田委員長、石田委員、沖野委員、奥野委員、駒田委員、西條委員、辻本委員、中村委員、長谷川委員、松尾委員、山村委員
4. 議 事
 - (1) ダム等の定期報告
 - 1) 丸山ダム
 - 2) 岩屋ダム
 - 3) 阿木川ダム
 - 4) 味噌川ダム
 - 5) 長良川河口堰
 - (2) その他報告
 - 1) 平成26年度 年次報告
 - 2) 平成27年の出来事
 - (3) 審議概要等の確認

(1) ダム等の定期報告について

1) 丸山ダム 定期報告について

【総括】

これまでの調査結果の分析・評価をとりまとめた丸山ダムの定期報告書(案)について、審議を行った。

その結果、丸山ダムは治水・利水について適切な効果を発揮していること、環境への影響等についても、各種環境指標の状況が概ね安定していることから、丸山ダムについては適切に管理運用されていることを確認した。

なお、委員会の審議に際し、各委員より出された主な意見等は、下記のとおり。

i) 防災操作

- ・なし

ii) 利水補給

- ・なし

iii) 堆 砂

- ・なし

iv) 水 質

- ・なし

v) 生 物

- ・植生面積割合の比較においては、同じ範囲での変化状況をもって評価をすることが適切と考えられるので、次回から資料の分析・整理をすること。
- ・ダム湖におけるブルーギル等の外来種が相対的に増加しており、その増加に留意すること。
- ・旅足川や名場居川は重要な支流と位置づけられるため、次回の報告では個別の流入河川として整理すること。

vi) 水源地域動態

- ・なし

- 定期報告書については、了承する。委員からの意見等は、提案(発言)の趣旨を踏まえ定期報告書に反映させること。

2) 岩屋ダム 定期報告について

【総括】

これまでの調査結果の分析・評価をとりまとめた岩屋ダムの定期報告書(案)について、審議を行った。

その結果、岩屋ダムは治水・利水について適切な効果を発揮していること、環境への影響等についても、各種環境指標の状況が概ね安定していることから、岩屋ダムについては適切に管理運用されていることを確認した。

なお、委員会の審議に際し、各委員より出された主な意見等は、下記のとおり。

i) 防災操作

- ・なし

ii) 利水補給

- ・利水補給実績の報告内容について、利水効果を高める取組を記載するなど工夫すること。

iii) 堆 砂

- ・なし

iv) 水 質

- ・P52の淡水赤潮の種類を記載すること。また、P48の淡水赤潮表記について、矢印の凡例を記載すること。

v) 生 物

- ・P69に記載の「開放水域」は、平常時最高水位等で水域を固定して評価すること。なお、水位変動域に隣接する土地の状況(例えば1年生草本類)を評価すること。
- ・構造物の面積が減少しているが、詳細について確認すること。
- ・魚類の確認種数について、一見すると概要版の記載数値が本編のデータと合っていないようなので確認すること。
- ・P46貯水池中層 T-P の変動が認められることからカワウの動向に留意すること。
- ・カワウの抑制について、継続して実施すること。

vi) 水源地域動態

- ・なし

- 定期報告書については、了承する。委員からの意見等は、提案(発言)の趣旨を踏まえ定期報告書に反映させること。

3) 阿木川ダム 定期報告について

【総括】

これまでの調査結果の分析・評価をとりまとめた阿木川ダムの定期報告書(案)について、審議を行った。

その結果、阿木川ダムは治水・利水について適切な効果を発揮していること、環境への影響等についても、各種環境指標の状況が概ね安定していることから、阿木川ダムについては適切に管理運用されていることを確認した。

なお、委員会の審議に際し、各委員より出された主な意見等は、下記のとおり。

i) 防災操作

- ・なし

ii) 利水補給

- ・なし

iii) 堆 砂

- ・なし

iv) 水 質

- ・浅層曝気設備の運用について、送気量等の運用条件と藻類繁殖状況との関係を明らかにするよう経年的分析を引き続き行い、他ダムの参考となるような情報提供に配慮すること。
- ・流域内の飼養頭数の多い家畜による流入負荷の対応について、引き続き関係者と検討していくこと。
- ・阿木川ダム貯水池の水質障害発生状況は、グラフ等全期間を対象にすること。

v) 生 物

- ・下流河川環境については、適切な土砂供給量を把握するために下流河川の河床材などの物理環境の変化と、生物の生息・生育状況の動向との関係について解析すること。

vi) 水源地域動態

- ・なし

- 定期報告書については、了承する。委員からの意見等は、提案(発言)の趣旨を踏まえ定期報告書に反映させること。

4) 味噌川ダム 定期報告について

【総括】

これまでの調査結果の分析・評価をとりまとめた味噌川ダムの定期報告書(案)について、審議を行った。

その結果、味噌川ダムは治水・利水について適切な効果を発揮していること、環境への影響等についても、各種環境指標の状況が概ね安定していることから、味噌川ダムについては適切に管理運用されていることを確認した。

なお、委員会の審議に際し、各委員より出された主な意見等は、下記のとおり。

i) 防災操作

- ・なし

ii) 利水補給

- ・なし

iii) 堆 砂

- ・なし

iv) 水 質

- ・なし

v) 生 物

- ・流入河川の水域ハビタットにおいて、平瀬の割合が増加している理由を確認のこと。
- ・カジカガエルがダム湖周辺で確認されなくなったが、ダムの影響なのか検討することが必要ではないか。(味噌川ダムだけでは評価ができないので、他ダムも含め検討すべき)

vi) 水源地域動態

- ・なし

- 定期報告書については、了承する。委員からの意見等は、提案(発言)の趣旨を踏まえ定期報告書に反映させること。

5) 長良川河口堰 定期報告について

【総括】

これまでの調査結果の分析・評価をとりまとめた長良川河口堰の定期報告書（案）について、審議を行った。

その結果、平成 22 年以降のフォローアップ調査計画に基づく調査が的確に行われていること、長良川河口堰の目的である治水・利水について適切な効果を発揮していること、環境への影響等についても堰運用前後で環境に一定の変化はあったものの、近年、調査結果は概ね安定した推移を示していることから、長良川河口堰については適切に管理運用されていることを確認した。

なお、委員会の審議に際し、各委員より出された主な意見等は、下記のとおり。

i) 治水

- ・なし

ii) 利水

- ・水道水源として、質の保全にも配慮して取り組んで欲しい。

iii) 塩害防止・地下水位の変動

- ・なし

iv) 水質・底質

- ・なし

v) 生物

- ・重要種であるカマキリ（アユカケ）とウツセミカジカについて、河川水辺の国勢調査では確認されていないが、別途実施した登落ち漁による調査で確認していることから、誤解のないような記述にされたい。
- ・外来種（植物）について、アレチウリは検証結果と評価に不整合があるので、再度、整理すること。新たに確認された外来種についても注意を図ること。
- ・河口堰地点で採捕された降下仔アユが 1 週間程度生存した例もあるため、今後、降下仔アユの分析を検討されたい。
- ・アユの全長の評価結果について、堰上流部では遡上アユと放流アユが混在していることを踏まえ、評価コメントを修正する必要がある。

vi) 今後の調査計画

- ・今後の調査計画は了承する。

- 定期報告書については、了承する。委員からの意見等は、提案（発言）の趣旨を踏まえ定期報告書に反映させること。